

文 22
23

それをすみだ川といふ。

その川のほとりに①群れるて②遠く思ひやれ③ば、④限りなく⑤遠くも⑥来⑦にけるかなど⑧わび合へるに、渡し守、「はや舟に乗れ。日も暮れ⑩ぬ。」と言ふに、乗りて渡ら⑪むとするに、みな人⑫ものわびしくて、京に思ふ人⑬なきにしもあらず。

問一

傍線部①の終止形は「群れるる」とある。訳として正しいのは?

ア 群れて立つ イ 群れて座る

文22 それをすみだ川といふ。
文23 その川のほとりに①群れるて②遠く思ひやれ③ば、④限りなく⑤遠くも⑥来⑦にけるかなど⑧わび合へ

⑨るに、渡し守、「はや舟に乗れ。日も暮れ⑩ぬ。」と言ふに、
乗りて渡ら⑪むとするに、みな⑫ものわびしくて、京に思ふ
人⑬なきにしもあらず。

問二

傍線部②「思ひやれ」（終止形は「思ひやる」）について

（一）次のどちらの意味か。

- イ ア 相手の立場に立つて考える
- イ 遠くに思いを馳せる

文22 それをすみだ川といふ。
文23 その川のほとりに①群れゐて②遠く思ひやれ③ば、④限りなく⑤遠くも⑥来⑦にけるかなど⑧わび合へ

⑨るに、渡し守、「はや舟に乗れ。日も暮れ⑩ぬ。」と言ふに、
乗りて渡ら⑪むとするに、みな人⑫ものわびしくて、京に思ふ人⑬なきにしもあらず。

(2) 終止形は「思ひかる」で、
「ず」をつけると「思ひやら
ず」になり、「ず」の上がア段
になるので、四段活用(ア一イ
ウ一ウエ一エ)である。この「思
ひやれ」は何形か。可能性があ
るものを見つ、次のの中から選べ。

ア 未然 イ 連用 ウ 終止 エ 連体
オ 已然 力命令

文23

その川のほとりに①群れるて②

思ひやれ③ば、④限りなく⑤遠く

も⑥来⑦にけるかなと⑧わび合へ

るに、渡し守、「はや舟に乗

れ。日も暮れ⑩ぬ。」と言ふに、

乗りて渡ら⑪むとするに、みな

人⑫ものわびしくて、京に思ふ

人⑬なきにしもあらず。

問三

傍線部③の「ば」は次の三つの訳を持つ。この場合はどれ？

アもし「ならば

※未然形 + 「ば」

いので

※已然形 + 「ば」で、

「ば」の上の出来事が原因で、「ば」の下の出来事が起こった。うすると・したところ

※已然形 + 「ば」で、

「ば」の上の出来事のあと、「ば」の下の出来事が

たまたまが起こつた。

その川のほとりに①群れるて②

思ひやれ③ば、④限りなく⑤遠く

も⑥来⑦にけるかなと⑧わび合へ

るに、渡し守、「はや舟に乗

れ。日も暮れ⑩ぬ。」と言ふに、

乗りて渡ら⑪むとするに、みな

人のわびしくて、京に思ふ

人⑬なきにしもあらず。

問四

傍線部④・⑤は同じ品詞の語である。次のどの品詞か。

名詞 イ 動詞 ウ 形容詞
形容動詞 才 助動詞

エ ア

その川のほとりに①群れるて②

思ひやれ③ば、④限りなく⑤遠く
も⑥来⑦にけるかなと⑧わび合へ
るに、渡し守、「はや舟に乗
れ。日も暮れ⑩ぬ。」と言ふに、
乗りて渡ら⑪むとするに、みな
人のわびしくて、京に思ふ
人⑬なきにしもあらず。

問五

傍線部⑤のように、「にけ
り」とある場合は、「だいたい
の場合、「に」（完了の助動
詞「ぬ」が活用したもの）+
「けり」（過去の助動詞）で、
「てしまつた」と訳すが、
傍線部⑤もこれだ。この
「に」は完了の助動詞「ぬ」
の何形か。（完了の助動詞
「ぬ」はナ変型「なにぬ」
る「ぬれ」ね）で活用する。）

ア已然
オ已然

イ連用　ウ終止　エ連体

文23 その川のほとりに①群れるて②遠く思ひやれ③ば、④限りなく⑤遠くも⑥来⑦にけるかなど⑧わび合へ

⑨るに、渡し守、「はや舟に乗れ。日も暮れ⑩ぬ。」と言ふに、乗りて渡ら⑪むとするに、みな人⑫ものわびしくて、京に思ふ人⑬なきにしもあらず。

問六

傍線部⑥の読み方は次のどれか。次の二点をふまえて答えよ。

1 「來」は力変で「こき」くくる
くれーこ・こよ」と活用する。
2 傍線部⑥の下には、連用形につく助動詞「ぬ」がある。

ア き イ く ウ こ

問七

傍線部⑧「わび」（終止形は「わぶ」）は次のどちらの意味か。

ア わびしく思う イ つらく思う

その川のほとりに①群れるて②遠く思ひやれ③ば、④限りなく⑤遠くも⑥来⑦にけるかなど⑧わび合へるに、渡し守、「はや舟に乗れ。日も暮れ⑩ぬ。」と言ふに、乗りて渡ら⑪むとするに、みな人⑫ものわびしくて、京に思ふ人⑬なきにしもあらず。

問八

傍線部⑨の終止形は「り」で完了の助動詞「たり」と同様、次の二つの意味を持つ。ここではどうどちらの意味で使われているか。

ア 完了（～してしまつた・～た）
 ※～の瞬間に注目
 イ 存続（～ている・～てある）
 ※～の後の状態に注目

その川のほとりに①群れるて②遠く思ひやれ③ば、④限りなく⑤遠くも⑥来⑦にけるかなど⑧わび合へるに、渡し守、「はや舟に乗れ。日も暮れ⑩ぬ。」と言ふに、乗りて渡ら⑪むとするに、みな人⑫ものわびしくて、京に思ふ人⑬なきにしもあらず。

問九

傍線部⑩は助動詞だが、「ぬ」という形になる助動詞は次の二つある。この場合はどちらか。

ア完了(～てしまつた・た)の

「ぬ」の終止形

- ・なにぬぬるぬれね
- ・連用形につく。
- ・下に推量の助動詞があるときは強意「きっと」との意味になる。

イ打消(～ない)の「ず」の連体形

・ず・ざら—ずざり—ず—ぬ・ざる

ね・ざれ—ざれ

・未然形につく。

文23：渡し守、「はや舟に乗れ。日
も暮れ⁽¹⁰⁾ぬ。」と言ふに、乗り
て渡ら⁽¹¹⁾むとするに、みな人⁽¹²⁾
ものわびしくて、京に思ふ人⁽¹³⁾
なきにしもあらず。

問五 傍線部⑤ 「む」 意味はどれ？

◎ 「む」 + 「名詞か名詞省略」

ア仮定（としたら）

例 僧になさむ「こと」は苦し。

イ婉曲（訳不要）

例 し出さむ「こと」を待つ。

※柔らかにするための「む」

◎ 「む」（下には名詞は絶対来ない）

提案してない

ウ推量（だろう）

例

雨降らむ。

エ意志（しよう）

例

我肉食はむ。

※「むとす」

はუカエだが、

この見分け方は使えない。

提案している

オ勧誘（したらどうか）

相手あり

例 一郎、花を見てこそ帰らめ。

力適当（のがよい）

相手なし

例 子はなくてありなむ。

文23：みな人⁽¹²⁾ものわびしくて、京
に思ふ人⁽¹³⁾なきにしもあらず。

問十一 傍線部⑬ 「ものわびしく」について

(1) 次のどちらの意味か。

ア なんとなくわびしい
イ なんとなくつらい

(2) 活用の種類は？

ア ク活用 イ シク活用
ナリ活用 エ タリ活用

問十二 傍線部⑭について

(1) 「なき」の終止形は「なし」である。品詞は何になるか。

ア 動詞 イ 形容詞 ウ 形容動詞
エ 助動詞

(2) この部分の訳は？

ア いない イ いないわけではない
ウ いるわけではない エ いる

このページは空白ページです